

2 学期の開始にあたり、十分な新型コロナウイルス対策で子どもたちの命と健康、学びと発達を保障する手立てを求めます

2021 年 9 月 1 日

新日本婦人の会東京都本部

2 学期を前に、新型コロナウイルスの危機的な感染拡大と医療崩壊状態に不安が高まっています。

とりわけデルタ株は、感染力が水疱瘡なみに高く、この夏、部活動や学習塾での子どもたちの感染やクラスターが広がっています。新学期が始まる今、これまでに経験のしたことのない感染拡大の中、子どもたちの命と健康、学びと発達を保障する手立てを、これまで以上にとる必要があります。現場まかせ、先生だのみではなく、公的な援助を強めることを求め、以下要請します。

1、希望者すべてに PCR 検査を無償でおこなってください

- 感染リスクを低く抑えながら安心・安全の学校生活をすごすために、9 月の新学期が始まる前に、児童生徒、教職員の希望者すべてに PCR 検査を無料で実施してください。
- 定期検査を実施してください。週に 1 回、2 週間に 1 回など、定期的に検査をおこなってください。子どもたちの活動する場は、コミュニケーションをとったり、交流したり、「密」になることは避けられません。発達や成長の場を保障するためにも、定期的に検査をおこない、早期発見、保護へとつなげてください。
- 学校やクラスで陽性者がでた場合、濃厚接触者以外でも PCR 検査を受けられるようにしてください。
- 学校関係者、学童や幼稚園、保育園など、子どもに関わる施設等で働く職員への、ワクチン接種を優先的に確保してください。

1、少人数クラス、分散登校などで、教室の「密」を回避する手立てをとってください

- 40 人学級などの大人数の教室では、身体的距離を確保することはとてもできません。感染対策徹底での学校生活は、不安な思いや子どもたちへの心身の負担が増すばかりです。一人ひとりの学びや発達、健康、命を守るためにも、9 月から、複数グループでの分散登校とし、少人数授業を実施してください。
- マスクの正しい装着、不織布マスク使用のさらなる徹底をしてください。(不織布マスクをつけることが困難な子をのぞく)

1、希望者にはタブレット、オンライン授業も可能にしてください

- 本人、または同居家族に疾患や妊産婦であるなど、デルタ株の驚異的な感染拡大のもと、感染予防として登校できない児童・生徒もいます。希望者には、オンラインでの授業参加なども、検討していきましょう。感染予防として登校できない児童・生徒を「欠席扱い」としないでください。

1、子どもたちの負担を軽減のために、学習内容の柔軟な見直しと実施をしてください

- 感染拡大の状況によっては、夏休みの延長や短縮授業、臨時休校の措置を取らざるを得ないことも予想されます。昨年の一斉休校では、毎日の授業が 1 時限追加されたり、長期休みの日数削減、行事の中止、授業による習熟が不十分となり宿題などの家庭学習によって補うなど、さらなる詰め込みとなり子どもたちに大きな負担がありました。このようなことが繰り返されないよう学習内容の見直しも柔軟に行ってください。また入学試験などの妨げとならないよう出題範囲も合わせるようにしてください。

1、学校関係者の希望者すべてにワクチン接種ができるようにしてください

- 東京都の教員については、職域接種で希望者の接種が済んでいると聞いています。非常勤講師なども含め学校関係の希望者すべてが接種できるようにしてください。

1、学校休校等の場合は、仕事を休まざるをえなかった保護者への生活支援金等を給付してください

1、学校や先生の努力では限界があります。いまこそ、教育への人員と予算を拡充してください。

【2021.9.1 東京都教育委員会との懇談での回答まとめ】（懇談後の変更点も記載）

1、希望者すべてにPCR 検査を無償でおこなってください への回答

【PCR 検査について】

①都としてPCR検査キット（唾液自己採取検査）を都立学校へ1校当たり50セット送付した（9/1付）。最終的には常時学校に100セット置くようにする予定。不足がない補充できる制度設計にしている。なくなったら終わりということにはしない。

②報道されている文科省から50セットのPCR検査キットについてはまだ具体的な通知がない。

☞文科省からの検査キット50セットの報道は誤り。（懇談後に判明）

③（検査はだれがするのか？先生はたださえ大変なので、校内で検査するなら別途人員配置してほしい）

☞検査は絶対に学校内ではしないようにと連絡している。可能性ある児童に説明したうえで検査キットを持ち帰ってもらい、家庭で保護者にやってもらうようにする。

④コストやタイムラグの問題もあるので定期的なPCR検査というより妥当性のある人を優先的に検査を考えている。濃厚接触者の範囲については基本的には文科省の定義と同じだが、従来のマスク無しや隣の席の児童だけでなく、対象の児童に（接触した子、一緒に帰った、遊んだ等）確認し、検査の範囲を決める。

※文科省は学校の判断で濃厚接触者のPCR検査の範囲決められると通達を出したが、東京都は検査範囲が大きく拡大する可能性があるとして、これまで通り濃厚接触者は各保健所の判断で決めるとした。（懇談後の変更点）

⑤市区町村立については配置するのではなく、濃厚接触者が出たら学校から都教委に申し込んでもらいその分のキットを配布する。（濃厚接触者報告から判明まで1週間程度要する）

☞陰性でも陽性でも濃厚接触者になった場合、その生徒は14日間外出自粛となる。都教委から各学校へ検査キット送付ではなく地域の教育委員会などで保管するなど、できるだけ早く、範囲も広く検査できる体制をつよように各教育委員会への申し入れが重要。（濃厚接触者の範囲は各自治体の保健所の判断になる）

【ワクチンについて】

◆（ワクチンによる副反応へのケアは？）☞副反応についての不安があればだれでもコールセンターで対応するようになっている。副反応によって出勤できない場合は、都の規定でも欠勤とならないとしている。

◆教職員のワクチンは、大規模接種の優先接種にしており希望者については先週までに2回接種を完了している。今後についても希望があれば優先枠とする。時間講師や部活動指導員、介助の方、給食の調理員、バスの運転手なども含め子どもと接する職員はすべて対象。学童・保育園なども子どもと接するので優先枠の対象にしている。地域枠でも優先となっている。

1、少人数クラス、分散登校などで、教室の「密」を回避する手立てをとってください への回答

◆都立学校については、一律ではないが分散登校や短縮授業などに取り組むようお願いしている。小学校低学年と中学校では違いがあり一律は難しいが、デルタ感染力の問題があり不安の声も多いので、各学校の工夫や取り組みなども紹介し、短縮や分散などをお願いしている。

◆（貧困などで不織布マスクを購入できない家庭もありつらい思いをする子もいるので、学校から配布してあげるようにしてほしい）☞不織布マスクの徹底、正しいマスクの着用を徹底する。これまでも保健室などで配布するようにはしていたが、随時ということであれば要望を伝えるようにする。

◆（分散登校の仕方を出席番号の偶数奇数などで分散登校としていた学校もあった。工夫などは？）☞密にならないような状況をつくる工夫をお願いしている

1、希望者にはタブレット、オンライン授業も可能にしてください への回答

◆オンライン活用しながら分散登校もお願いをしている。児童本人がかかってもなくても家族が感染して学校に送り

出せない状況の場合も、オンラインも活用して学習補償をするよう積極的に進めてくださいと区市町村にもお願いしている。そういった場合に欠席扱いにしないというのは従前より同じ。むやみに来なくていいということではなく事情を考慮して欠席扱いにしない、ただし学習の支援とセットで行う。

◆（昨年不安で休んでも欠席扱いにはならなかったが、テストを受けられなかった分は成績がつけられないということがあったが、休んだ場合の評価はどうするのか）⇒評価の方法はさまざま。事前に生徒と保護者に評価の仕方を丁寧に説明したうえでやっていく。今後そのような事例があったら遠慮なく支援センターや教育委員会に言ってほしい。学校と相談しながら丁寧に対応する。

◆（オンライン授業のためのタブレットは個人使用？高校生は東京都からリースしてはどうか）⇒市区町村は学校から配布されている。高校は基本は自分で用意だが、事情がある場合には学校備え付けのが40台あり個人に貸し出し活用できるようにしている。

1、子どもたちの負担を軽減のために、学習内容の柔軟な見直しと実施をしてください への回答

◆（授業時間延長や宿題増などつめこみでやっても身につかない。必要な部分を厳選して学習指導をしてほしい）
⇒昨年は2か月休校になり、学習の進捗の問題があって出題範囲の縮小をした。今年はそれとは違うので現時点では（見直しの）準備はしていない。学校行事は一律中止をするのではなく工夫をしてやれる範囲でやるようにと言っている。感染状況が地域によっても異なるので、それぞれに応じて判断してもらうようにしている。昨年は初めてのことであったので各学校試行錯誤した。デルタ株で動き見えないが、子どもたちが学校で健やかな育ちをしていくために様々な教育活動は重要。どういう形が最善か情報整理し市区町村の教育委員会にも伝えていく。

1、学校関係者の希望者すべてにワクチン接種ができるようにしてください

◆最初の問いで回答済み

1、学校休校等の場合は、仕事を休まざるをえなかった保護者への生活支援金等を給付してください

1、学校や先生の努力では限界があります。いまこそ、教育への人員と予算を拡充してください。

◆教育委員会の管轄でないので担当部署に伝えるようにする